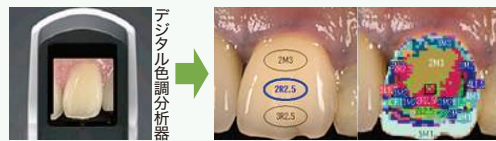


金属を使わないノンメタル治療 身体に優しく審美的



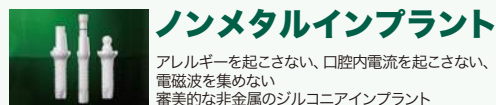
歯の透明感、艶、縞模様を忠実に再現



先端の黄ばみや横傷、凹凸感や光沢を忠実に再現



特殊な色調も忠実に再現

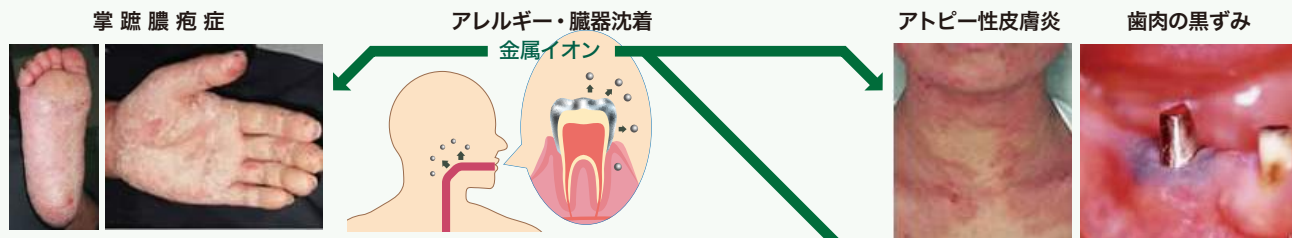


ノンメタルインプラント

アレルギーを起こさない、口腔内電流を起こさない、電磁波を集めない、審美的な非金属のジルコニアインプラント

歯科金属の3つの害

① 金属イオンの溶出



③ 電磁波の集積



パッチテスト、毛髪検査、尿・便・血液検査、吸光度法により有害・必須ミネラルの体内蓄積度の分析

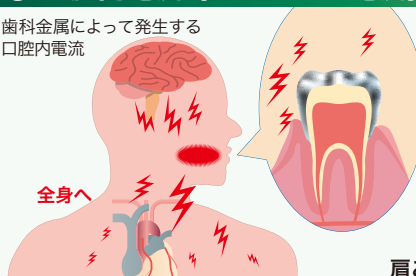
特に水銀イオンは、血液中のヘモグロビン（酸素を運ぶ役目）と結びつきやすく、身体は酸素供給不足となる



吸光度法による分析機器

② 口腔内電流（ガルバニー電流）の発生

歯科金属によって発生する口腔内電流



肩こり、頭痛など自律神経系に障害

国内に先駆けて導入した放電機能付き口腔内電流測定器



金属イオンとして溶解すると、金属アレルギーや掌蹠膿疱症などの皮膚症状や臓器蓄積による機能障害を引き起こし、老化に拍車をかける。また、歯肉や歯の黒ずみの原因となり、審美障害を引き起こすことにもつながる。「当院の場合、みきこクリニックで吸光度法や毛髪ミネラル検査、尿・便・血液検査などを行い、体内蓄積度がわかるようになっていきます。毛髪ミネラル検査は、髪に排出された有害重金属を調べる方法で、数値が低いからといって単純に安心できません。水銀などは体内の新陳代謝力が弱っていると外に排出されにくく、鉛も骨にくっついてしまう」と外になかなか出ません。その人の状態をよく診て、またほかのミネラルとの兼ね合いも見て、蓄積を予想し対応することが大切です」

口腔内電流は、異種金属が唾液を介して接触した時に流れるガルバニー電流のことです。この発生により、自律神経（交感神経・副交感神経）を乱し、さまざまな不定愁訴を引き起こすという。「口腔内電流については、2台の放電機能付き口腔内電流測定装置を導入しています。この先端装置を使って歯科金

属に溜まった電流を放電し、これにより頭痛や肩こりなどの症状が改善すれば、症状の原因が口腔内電流であったと診断できます」

身のまわりの電磁波を口腔内の歯科金属がアンテナとなって集積し、電磁波障害を引き起こす。実際、電磁波過敏症になり、慢性疲労症候群を訴えて来院する患者さんが数多く来院するという。電磁波障害の治療では、原因除去に加え、バイオレゾナンスメソッド（生命共鳴法）による調整療法を行うことでより効果的な治療が期待できる。最新機器を活用して、生命エネルギーの状態を調べ、電磁波の影響で不調な状態があれば、それぞれの電磁波特有の周波数を体に送り、調整を目指す。

セラミックやジルコニアなどのノンメタル治療

歯科金属の害については、身体に合わない歯科金属を除去し、セラミックやジルコニアなどの非金属の歯科材料に置換する。「ノンメタル治療を行えば、身体がよくなるだけでなく、審美性はもちろん、かみ合わせも改善されます」

ノンメタル治療は、歯科材料だけ



みきこクリニック
中垣 美紀子 院長

profile

なかがき・みきこ
大阪府茨木市済生会病院を経て、茨木市立豊川診療所所長。日本内科学会認定総合内科専門医、日本東洋医学会認定漢方専門医

統合医療
歯科
西洋医学
東洋医学
（を中心とした伝統医学）
医科



中垣歯科医院
中垣 直毅 院長

profile

なかがき・なおき
歯学博士。大阪医科大学歯周病学講座講師、米国インディアナ州立インディアナ大学歯学部歯周病科客員講師。日本歯周病学会認定歯周病専門医

医科歯科連携治療

情熱医療
プロフェッショナル
ドクター
PROFESSIONAL DOCTOR

身体のことを考慮した審美的で身体に優しい歯科治療を实践
金属アレルギーや電磁波過敏症、慢性疲労、肩こりや頭痛など
原因不明の不定愁訴は歯科が原因？
内科を併設し西洋医学と東洋医学を融合した
医科歯科連携による統合医療を目指す

身体に害を及ぼす

歯科材料、悪玉細菌、経皮毒

「歯科大学時代、頭痛薬を手放せないほどの頭痛と手術を宣告されたほどの腰痛を、かみ合わせ治療と歯科金属の除去で完治した経験を持っています。この歯と全身の密接な関係の実験により、歯科が現代医学の盲点と気づき、口の中だけを診るのではなく、身体のことまで考えた歯科治療を実践しています」と中垣歯科医院の中垣直毅院長は話す。

や掌蹠膿疱症などの皮膚炎をはじめ、肩こり、頭痛、慢性疲労などの不定愁訴、電磁波過敏症などで悩んでいる患者さんが数多く来院する。

金属アレルギーや皮膚炎を含め歯科の領域でさまざまなつらい症状を引き起こす原因として、①金属、樹脂などの歯科材料、②むし歯菌・歯周病菌などの悪玉細菌、③歯磨剤・うがい薬などの経皮毒の3つが挙げられる。「いずれも本来口腔内になかったもので、それらを取り除く口腔内のデトックス（排毒）が必要になります」

金属イオン溶出、口腔内電流発生、電磁波の集積の歯科金属の害

まず、歯科金属の害として、中垣院長は①金属イオンの溶出、②口腔内電流の発生、③電磁波の集積の3つを指摘する。歯科金属が唾液中に

オゾン療法の流れ

抗酸化機能の活性化、細胞の修復機能の向上、免疫力の向上、老化防止

Step1

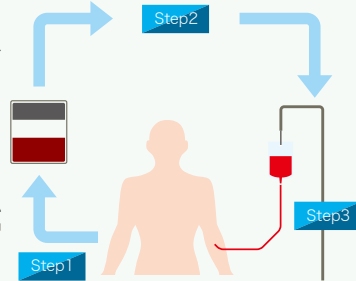
100~200mlの血液を静脈から採取します。
献血と同じように座って安静にいただき、100~200mlの血液を採取します。

Step2

採取した血液に医療用オゾンを注入します。
お身体から採取した血液に少量の医療用オゾンを注入します。オゾンが溶け込むと血液中の酸素が増えて鮮やかな赤い色に変化。注入するオゾンの量は、体型や運動習慣に合わせて適切な量に調整します。

Step3

点滴で血液を体内に戻します。
オゾンと反応させ、大量の酸素が溶け込んだ血液を体内に戻します。ご自身の血液を点滴で体内に戻すだけなので負担もありません。血液の採取から終了まで20~30分程度で終了します。



かみ合わせと体は密接に関係している。かみ合わせ治療のための体の調整を専用ベッドを用いて行うこともある

危険なアマルガム除去のため
新館増築の際に安全設計を追求

中垣院長は、歯の詰め物であるアマルガム（50%水銀）の危険性も指摘する。「金属アレルギーでおなじみの詰め物は、除去する時に慎重な注意が必要です。削る時に削片（固体）が口腔内に飛び散るため、口腔粘膜に刺さったり、誤飲しないようにゴムのシートを装着します。切削する時に摩擦熱で発生する水銀蒸気（気体）のほうが固体よりはるかに怖いもので、吸引すると非常に危

治療が難しい大きな膿袋のある歯や、今にも割れそうな歯質の薄い歯など予後不良の歯は、病巣感染のリスクを避けるためにも抜歯し、金属ではない100%ジルコニアインプラントにかえるという治療がある。「病巣感染とは別に、歯の欠損部分の治療においても、歯科金属の3つの害（金属イオン溶出・口腔内電流発生・電磁波集積）がない非金属のジルコニアインプラントは、アレルギーを起さず、自律神経に悪影響を及ぼさず、電磁波障害も起こさない全身の健康を考えた歯科治療といえます」

内科や鍼灸と連携し
根本的患部の効率的治療を行う

中垣歯科医院では、歯科だけでなく、内科や鍼灸（スポーツトレーナーで、鍼灸師でもある白石宏が

危険です。当院ではアマルガムの除去の安全性のために医院の建築段階から徹底的に取り組んでいます」
具体的には、新館増築の際に安全なアマルガム除去を行う設計を取り入れ、完全個室3室を用意した。水銀蒸気を個室内に留め屋外に完全に排出できなければ隣の診療台や受付、待合室の患者さん、スタッフにも水銀蒸気の汚染が広がる可能性があるからだ。
「すべての診療台と階段廊下などに開閉式の大きな窓を設置し、アマルガム除去後、室内の水銀蒸気を換気するように徹底しています。また、口腔外バキュームを設置し、アマルガム除去時に発生する水銀蒸気を吸引します。口腔外バキュームの排気は室外に向けています。室内に向いていると口腔外バキュームより吸い込んだ水銀蒸気が、また室内に戻ってきて循環し、汚染の原因になるからです」

完全個室の診療台でアマルガムを除去



完全個室3室を用意し、アマルガム除去の際に発生する水銀蒸気の拡散を防ぎ、個室内に留める
危険なアマルガムを防毒マスクをはじめとする安全装備で除去する中垣院長



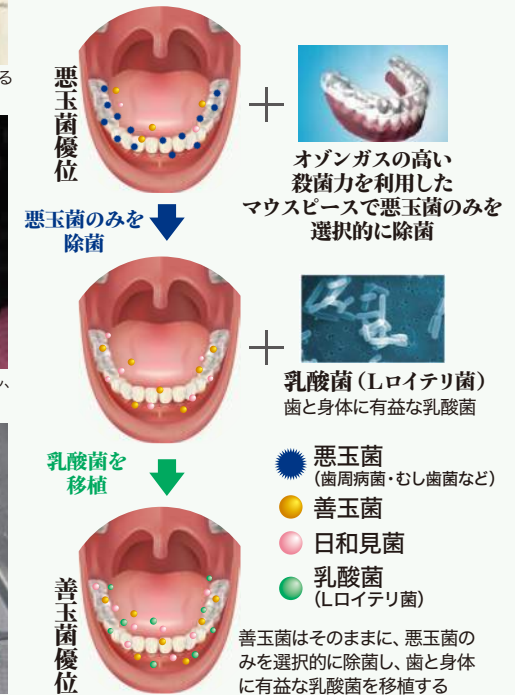
屋外に口腔外バキュームの排出口を設置
口腔外バキュームで水銀蒸気を吸引して拡散を防ぐ
アマルガム除去時、ゴムのシートを装着し、のどに入らないようにする



開閉式の窓で換気を徹底
建築段階よりアースを設置するなど、電磁波対策を徹底して行っている

細菌置換療法…細菌の質を改善する（リプレースメントセラピー）

悪玉菌のみを選択的に除去し、善玉菌を増やす
歯周病の治療、むし歯・歯周病の予防
菌血症（菌が血流に入り込む）の予防
動脈硬化の予防、全身疾患の予防



悪玉細菌の治療として
口腔内の細菌置換療法を実施

最近、問題視されているのが、むし歯菌・歯周病菌などの悪玉細菌だ。中でも歯周病菌は、歯周組織を破壊するだけでなく血管に侵入し菌原性菌血症となり、動脈硬化を起すリスクが高まる。また、高血圧や糖尿病、肺炎、心疾患、脳疾患、早産、アルツハイマー型認知症などの全身疾患の要因ともなり、場合によってはアレルギーをも引き起こす。「歯周病菌のP.g菌（ポルフィノモナス・ジンジバリス菌）が口腔内に多いとアレルギー体質に傾くことがわかっています。P.g菌の感染については、遺伝子検査法でその有無を調べることができます」
同院では、悪玉細菌の治療として口腔内の細菌置換療法を行っている。「従来の細菌の量を減らすプラークコントロールに加えて、塩素の7

菌の保存治療では、根管内嫌気培養法が注目されている。「根の先の膿の原因は細菌です。根の先の細菌がなくなつたかどうかを嫌気培養器という先端機器で嫌気培養を行い、無菌になったかどうかを確認して治療が終わると極めて治療効果が高いことがわかっています」

倍といわれるオゾンガスの高い殺菌力を活用した除菌用マウスピースを使って悪玉菌のみを選択的に除菌し、乳酸菌（歯と身体に有益）を移植して細菌の質を改善することで歯と歯周組織と血管と身体を守ります。また、アレルギーになりにくい体質ともなります」

菌の神経が死んで根の先に感染した場合、自覚症状がないものが多く、患者さんが気づかないうちに全身のいろいろなところに悪影響を及ぼす。歯の根の先の膿袋は口腔から離れた体にさまざまな病気を引き起こす病巣感染となる。できる限り歯を残したいが、病巣感染の観点から考えると治療の選択肢は増える。



中垣歯科医院
大阪府豊中市中桜塚4-7-4 (TEL) 06-6841-8217
みきこクリニック
大阪府豊中市中桜塚4-7-3 (TEL) 06-6841-3232